

愛知県震度観測・調査報告書―第36報―の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成28年1月～12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で36冊目となる。トピックスとして、「2016年熊本地震」及び「南海トラフ地震に関する地震予知・予測の現状」についての解説を掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書―第36報―の概要

(1) トピックス

ア 2016年熊本地震

2016年熊本地震の特徴や発生した被害、この地域における事前の地震の想定や地震後の調査の動き等について述べている。

イ 南海トラフ地震に関する地震予知・予測の現状

大規模地震対策特別措置法の見直しに関連した、東海地震、広くは南海トラフ地震の地震防災対策に関する内閣府での議論について、地震予知・予測の現状を踏まえて述べている。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

平成28年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は25回であり、震度4以上が観測された地震の発生はなかった。

イ 国内の主要な地震

平成28年に、国内で、被害を伴った地震の発生は7回であった。

ウ 世界の地震

平成28年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は11回であり、死者が100名を超える海外の地震の発生は4回あった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民相談・情報センター等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。